

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-052	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
Longitudinal relationship between drinking with peers, descriptive norms, and adolescent alcohol use. 青少年の飲酒状況と友人との飲酒と記述的規範との縦断的關係		
執筆者		
Brooks-Russell A, Simons-Morton B, Haynie D, Farhat T, Wang J		
掲載誌		
Prev Sci. 2014 Aug;15(4):497-505. doi: 10.1007/s11121-013-0391-9		
キーワード		PMID
青少年、友人、飲酒、記述的規範(descriptive norm)		23564529
要 旨		
<p>目的： 記述的規範(descriptive norm)が青少年の飲酒の予測因であることは広く知られているが、記述的規範に与える影響についてはほとんど分かっていない。本研究は、友人との飲酒がその後の飲酒の予測因であるか、友人の飲酒に関する記述的規範の変化がそれらの関係に影響を与えるのかを調べることである。</p> <p>方法： 高校 1～2 年生を対象にしたアメリカを代表するコホートを用いた(2,162 名)。ベースライン時と 1 年後の飲酒行動と 1 年間の記述的規範による影響との関係を調べるために構造方程式モデリングを用いた。</p> <p>結果： 男女ともに、有意に記述的規範が友人との飲酒と飲酒状況との関係に影響を及ぼしていたが、女性より男性の方でより影響が大きかった。</p> <p>結論： 飲酒に関する記述的規範を評価・改善していくことを支持する結果であった。</p> <p>※訳者注 社会心理学的には社会規範は記述的規範と命令的規範に分けられる。心理学者によれば命令的規範は守るべきルールを、記述的規範は実際に守っているルール(していること)をさす。たとえば”ポイ捨て禁止”という表示を見てごみを捨てていけないと考えるのは命令的規範で、道端にごみが散らかっている状態はごみを捨てていい(実際にごみが捨てられている)と考えるのは記述的規範である。</p>		